

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100083		
法人名	ひかりの里 株式会社		
事業所名	グループホーム ひかりの里 (1階ユニット 藤 ・ 2階ユニット 桃)		
所在地	岡山県岡山市南区中畦187-8		
自己評価作成日	平成25年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100083-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成26年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひかりの里は、グループホーム、有料老人ホーム、デイサービス、なかとう整形外科と併設しており、全て渡り廊下で繋がっています。そのため他部署との繋がりがもあり、医療との連携も密に出来、入居者様お一人お一人の心身の管理にも配慮させていただいています。また、グループホームでの入浴が不自由になれば、有料老人ホームの特殊機械浴を使用することもでき、排泄もなるべくオシメを使用しないで職員の対応で失禁、失便を極力減らす取り組みもしております。毎年7月には、恒例となったひかりの里全体としての夏祭りも定着し地域の皆様、ご家族様、入居者様はもちろん職員も楽しいひとときを過ごすことができています。ひかりの里テーマソング、踊りもあり、皆で踊るのも楽しみのひとつとなっています。入居者様も職員も笑い声や笑顔が絶えず、ひかりの里の理念でもある誠実、希望、愛、笑顔をもっと一に、入居者様お一人お一人の思いを大切に、経口摂取が可能の方、またそうでなくても看取りまでお世話させていただきます。入居者様、職員共に日々穏やかにゆったりとした時間を過ごすことが出来るような環境作り、職員間のチームワークがあるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「我が川柳 いこいひととき お茶ばなし」達筆の数句がリビングに掲げられ、本人が喜んで見せてくれたノートには名句がびっしり。午後の机では見事な貼り絵に熱中するふたりの得意げな笑顔。一方、じっと動かずソファから離れたくない人も居る。「我が道を行く」「みんな違ってみんないい」流のホームである。それでいて、いや、それだからこそだろう。管理者がそうありたいと願う通り、笑顔あふれ、笑い声が響き、活気あるホームである。数年前に初めて訪問した頃は車椅子の利用者が多く、静かなリビングであったと思う。医療面や敷地内にあるデイサービス「えんがわ倶楽部」等の法人施設の協力のカも大きいですが、2006年に設立して以来、色々な状況に真剣に相対してきた実績が今日の日を築いている。地域や家族に、より密着したサービスを目標として運営推進会議も定着し、十年目を目指してさらに躍進される事を期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンス等において意識の確認を行っている。 職員に関してはオリエンテーションの中で説明している。 	ホームの理念「誠実」「愛」「希望」「笑顔」を職員間で共有し、笑顔が絶えないホームを目指してきた。その人に合った介護を労を惜しまず支援するという職員の日々の姿勢がその目標の達成に近づきつつある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 興除神社へ年2～3回参拝、年1回夏祭りを開催し地域、利用者、家族、ボランティアの交流を図っている。 小学生が社会見学や交流のために来所する(毎年2年生)また小学校での行事を見学に行かせてもらっている。 	法人施設内合同の夏祭りを毎年開催しており、興陽高校の太鼓はいつも好評である。屋台や様々なイベント等には地域の人やボランティアの協力もあり、地域との絆も年々深まっている。「お米フェスタ」への参加や中学生の体験学習、小学生や高校生との交流等、地域交流の輪も広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の職場体験を受け入れて、介護保険及び認知症の説明を行う。 高校生のインターシップを受け入れ指導を行う。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 現状報告を行う。 避難訓練、敬老会、誕生日会等を一緒に行っている。 	地域包括職員、町内会長、民生委員、地域の人、家族等の参加があり、2ヶ月に1回開催している。活動報告、情報交換の他、興除地域の社会資源について話し合う等有意義で活発な意見交換をしている。議事録を玄関に置き、一般に向けて情報開示している。	運営推進会議についてはH24年度は毎月、H25年度より隔月の開催をしている。ホームの玄関に開示されているこの会議録には詳しい報告があり、解かり易い記録でとても良い。毎回の議題や内容・参加者については今後柔軟に対応していきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 常に問い合わせしている。 岡山市介護保険課とは何かあれば(何もなくても市へ他の業務で来所する時等)TEL訪問を重ねている。 	運営推進会議には地域包括の職員の出席が毎回あり、情報提供やアドバイスを受けている。市の担当者はホームの状況をよく把握してくれており、何か聞きたい事があればいつでも連絡して相談し、指導や助言を得る等、日頃から良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束は行っていない。 マニュアルを利用し、研修を行っている。 入社時のオリエンテーションにて必ず説明。 各部署のマニュアルのファイルに常時備えている。 定期的に研修をオリエンテーションにからめて実施。 	日中の玄関の施錠については、可能な限り開錠する目標を持ち、運営推進会議でも議題として話し合っているが、安全対策上の理由で今のところ現状維持にしている。毎月のカンファレンスでは身体拘束の冊子を数ページずつ読み上げて職員間で研修をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束は行っていない。 入社時のオリエンテーションにて必ず説明。 各部署のマニュアルのファイルに常時備えている。 定期的に研修をオリエンテーションにからめて実施。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・生活保護の対応はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・主に施設長と管理者との2名にて行う。利用者の家族は主にキーパーソン夫婦及び兄弟等極力複数の人数にて行う。 ・経過表に記録している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見や要望はホームの運営に必要と思っている。 ・ケアプランに反映することでスタッフの意識統一に向ける。	面会の時や会議、イベントの参加時に家族に状況報告をし、意見や要望等を話し合っている。毎月の請求書と一緒に状況報告の手紙も添えて出している。この1年間、中断していた家族アンケートも来年度は実施する予定にしている。	ケアプランの利用者・家族の意向欄に領けるような記録が見られたので、それぞれの思いを聞き取る状況は出来ていると思う。例年実施しているというアンケートや運営推進会議を通して、それらの思いを形にしていく方法を話し合ってみたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティングや申し送りノートでその都度伝えている。 ・全体会議等の場で代表者の考え、方針等を職員に伝えている。 ・スタッフからは疑問を感じた時に相談がある。	毎月のユニット毎の会議で情報の共有・意見交換をしており、管理者と職員はフランクに話し合える間柄である。「認知症の定期的な研修を行なって欲しい」と職員からの意見があり、恒常的に勉強していく研修計画を立てる等、職員の意見・要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者と管理者は常に報告、連絡、相談を実践しており、代表者の方針は職員へ、職員の思いや評価はその都度代表者へ伝えている。他部署の責任者とも随時相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・必要な事柄についての施設内研修はミーティング時に行う。ミーティングやオリエンテーション等の機会をとらえて行っている。 ・資格取得を促す。 ・研修案内を回覧する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・交流を持ちたいとは思っているが実施できていないのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時のケアプランを作成する。 ・個別ケア表に注意点を記入し、スタッフが把握しやすいようにする。 ・新たな気づきを報告しあって、ケアに繋げる。 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介のある方にはCM. SWより情報を聞く。 ・面談・契約時に希望を聞き、経過表に記録しておく。 ・施設に入れる事へのご家族の思いを傾聴し、必要性を説明する。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントの情報を個別ケア表にして表し、入所前に職員には伝える。 ・契約時、若しくは入居時にケアプランの確認をして頂く。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家族と思うこと、自分がされて嫌なこと、言われて嫌な事はしないをモットーにしている。 ・得意なことで、参加して貰っている。 ・できる手伝いはして貰っている。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を利用。 ・通院や買物等で家族の出来る事は依頼する。 ・家族を交えてのイベントを計画する。(お花見・初詣・敬老会・夏祭り等) 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の中から、生き立ちや思いを引き出せるように努めている。 ・デイサービスに遊びに行ったり、有料老人ホームへ訪問する。 	<p>帰宅願望のある人は職員と一緒に自宅の前までドライブした事もあった。以前利用していた法人のデイの職員・利用者との交流や現在、法人の病院に入院中のご主人とお互いに行ったり来たりしている人もいる。職員は一人ひとりがこれまで大切にしてきた馴染みの関係継続の支援をしている。</p>	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・1階、藤ユニットは話好きな女性が多く常にぎやかな声がきかれているがそうでない方は職員が寄り添いコミュニケーションを取るよう努めている。 ・2階、桃ユニットは個性的でお互い歩み寄りをされない入居者様ばかりで個々に自由に過ごされているが、その思いを尊重しながら生活できるよう支援している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後は病院や他施設が殆んどなので退所後には余り交流がないが、亡くなった時には挨拶に来て下さる方もおられる。 ・家族の方とは、夏祭りを通して交流がある。 ・スタッフが転居先に面会に行くことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・極力マイペースな生活が出来るように支援している。 ・訴えの多い方への比重が重くなりがちなので、意思表示の少ない方の思いを探るよう努めている。 ・可能な限りの援助が出来るように家族にも理解して頂く。	日々のその人の発言・会話・行動等、「生活記録」に記入し「何がしたいか」「どうして欲しいか」等、その人の思いやニーズを知ろうと努力しているのが窺える。今年実施できなかった「入居者様アンケート」を来年は必ず行い、個々の思いや意向の把握に努めたいと思っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・申込から入居に至る経過及び家族の思いを、分かる範囲で経過表に記録している。 ・施設での生活をファイルに綴っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ケアプラン作成時にその人の生活歴や生活環境に合わせた生活スタイルが守れるように努めている。 ・体調に合わせたケアを行っている。 ・なかとう整形と24時間連携医療の契約をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・状態に変化がある時や定期的ケアプランの見直し(6ヶ月毎)の前にはカンファレンスにてモニタリングを行っている。	個々の暮らし方のニーズを本人や家族から上手に聞きだし、具体的な目標として設定している。定期的又は必要に応じて利用者・家族・職員でカンファレンスを行い、状態の変化をモニタリングしながらプランを作成し、流動的な支援につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常の様子、会話の内容等を記録するよう努めている。 ・楽しい会話や驚く内容の事はスタッフ同士のコミュニケーションの材料にもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・可能な事は叶える事が出来るように努める。 ・他医療機関への受診介助は家族に協力してもらうこともあるが、家族と一緒にスタッフが同行し状態を伝えられるようにしている。 入退院の介助も極力行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・小中学校の生徒達との交流や神社への参拝、運動会への見学。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・なかとう整形外科をかかりつけ医としている方が多いので直ぐに相談できる。 ・他の医療機関の方は家族が対応する(困難時は職員が対応)。 ・必要時にはなかとう整形の院長の紹介で受診する。	母体の整形外科をかかりつけ医としている人が多い。内科はそれぞれ従来のかかりつけ医を受診しているが、隔週の土曜日、法人病院で内科の診療がありそこを受診している人もいる。他科受診は原則、家族に付き添いをお願いしているが、緊急時は職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・24時間医療連携での対応が行えている。 ・有料老人ホーム及びデイサービスの看護師にも相談ができ、直ぐに対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・なかとう整形からの紹介で入院となるので、診療情報は院長に必ず返され、院長の指示にて退院後の対応を行う。 ・退院後、院長、家族、管理者とで方針について話し記録している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時に重度化の指針について説明する。 ・職員は自然の看取りを行う事を認識している。 ・身体機能の低下が著しい時には、院長・家族と今後の方針について相談する。	今年3名の看取りを行なった。そのうち2名は老衰でのターミナルケアの支援をした。後日、その人のホームでの生活歴(思い出の写真、記録、自筆のメモ等)をファイルして家族に渡し、とても喜ばれた。今後も本人、家族の希望があり、医療的行為が必要なれば関係者と話し合い、医療連携をとりながら出来る限りのお世話をしたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルは備えている。 ・研修で事故対応(気道確保、体位等)に関する事は必ず指導している。 ・定期的な応急手当の訓練は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・マニュアルは備えている。 ・夜間を想定しての火災訓練は行った。 ・運営推進会議、町内会総会の席で地域の方に協力をお願いした。 ・災害時の避難経路、食料の備蓄について決めている。	昨年の避難用らせん滑り台設置に加え、今年はグループホーム2階と隣の有料老人施設とが渡り廊下でつながり、避難経路を確保出来た。災害時の食料品備蓄の水・菓子パン等も常備しており、津波対策も日頃から話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングにて行っている。 ・必要性のある時には申し送りノートにてスタッフに伝わるように努めている。 	<p>利用者と職員の間には垣根がなく、コミュニケーションはよくとれているが、親しみの中にも職員の言葉遣いが気になる時は、管理者はそれとなく注意喚起を促している。排泄時座位がとれる人には、声かけしながらトイレの外で待つ等のプライバシーへの配慮もしている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は自然体で接する事に努め利用者との信頼関係を築けるように対応している。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフには自分の思い込みやペースで仕事をしない事を常に伝えて、利用者の方の思いや希望に沿った支援をすることを方針としている。実際には、困難なことも多いが、極力思いに添えるような気付きや、方向性の確立に努めている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なものがあれば連絡する。 ・朝の整容に気を配るよう指導している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の厨房で作り、各ユニットで個人に合わせた形態にして提供する。 ・お盆拭き、食器拭きを自主的に行えるような声掛けに努める。 ・栄養士が食事を一緒に摂れる機会を作り、利用者の意見を聞いたり、利用者の現状を見て食事を工夫する。 	<p>月1回の厨房会議でメニュー内容や要望を検討し、献立に反映している。イベント食は“お重”が出て特に豪華である。普段はお粥の人が“ばら寿司”を喜んで食べる等、利用者も楽しみにしている。重度化が進んではいるが、以前はしていたおやつ作りに再挑戦しようと思っている。</p>	<p>「この食事は美味しいよ。どうぞ召し上がれ」と勧めてくれる利用者も居たが、日常的なアクティビティの一つとして「おやつ作り」や「みんなで料理を」を復活させると、もっと楽しい時間になると思う。</p>
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・水分の量は記録していないが、水分摂取できているか、いないかを把握し、不足している方は特別に記録に残し摂取を促す。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後行っている。 ・訪問歯科と契約している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日誌に記入している。 ・個人の排泄パターンや行動の把握にて、トイレでの排泄を促すように努めている。 ・全介助の方も1日5～6回はトイレ移乗にて排泄を促す。 	1階は排泄が自立している人が多く、2階は声かけ誘導が必要な人がいる。職員は、失敗して洗濯物を絶対出さないことを目標にし、汚さない、失敗させないケアに取り組み、利用者が気持ち良く過ごせる様に日々、奮闘している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の排泄パターンに応じて下剤の投薬、ヤクルト及び牛乳の摂取を促す。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には曜日を決めている。体調や気分に応じて変更している。 ・自分でできる事は行うように見守っている。 	週2～3回を基本としているが2階の利用者は皆、入浴好き。1階は入浴拒否の人がいる。今日もお風呂で元気な声が聞こえてきた。職員の巧みな会話とコミュニケーションで利用者も少しずつ落ち着いてきた場面に会った。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・過剰な眠剤の使用は行っていない。 ・両ユニット共に比較的良眠出来ていると思う。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・なかとう整形とは随時相談できている。 ・お薬手帳に貼付している。 ・薬の追加・変更の際には、申し送りノートにて周知徹底する。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るように努めている。家事等(お盆拭き、洗濯物たたみ等)できられる方には本人の調子を見ながらしていただいている。はり絵や川柳作りをされる方もおられる。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るように努めている。 ・家族と一緒に外出をしている方も居られる。 	1・2階ほとんど全員で桜・こぶし・木蓮等の花見に行き春を感じたり、季節の外出行事として初詣、ドライブを兼ねて紅葉見学に行く等、外出支援をしている。天気の良い日はホームの近くの遊歩道や敷地内の周りを散歩している。家族にも外出の協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には現金は預かっている。 ・家族の了解の範囲で、個人が持ち、使用の機会があれば使用する。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望があれば行っている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔で季節感を感じられるように気を付けている。 ・玄関ホールには季節に合わせた折り紙、利用者とは協同制作したはり絵を掲示している。 	リビングの壁には、夏祭りに踊る「ひかりの里テーマ」の歌詞が貼ってあり、歌ってくれる人もいる。お得意の自筆の川柳の作品も飾ってある。日当たりのよい畳のコーナーで午後の昼寝をする人、天気の良い日は外のベランダでお茶を飲む人、それぞれマイペースな生活を職員が温かく見守っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ決まった場所で過ごすことが多い。場所を変えると嫌がる方が多い。 ・自席以外の場所は自分で行きたい所を探していけることが多い。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望のある方には、持ち込み可能な物は持って来て頂いている。 	使い馴れた物を持ち込み写真、人形等を飾っている人、大きな仏壇を置いている人、シンプルな室内にしている人もいて家族の工夫も随所に見られる。自筆の川柳を書き溜めたノートを「見てくれるだけで嬉しい」と何冊も見せてくれる人もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、お風呂の表示をしている。 ・各部屋に名前を書いている。 ・バリアフリーにしている。 ・避難経路の表示がある。 ・ホールの周囲に手摺を付けている。 ・2階に渡り廊下をもうけ、非常用のすべり台も取り付けた。 		